資料3
2026/9/4

答申にあたって（案）

府中市生涯学習審議会（以下「審議会」といいます。）は、府中市教育委員会から令和７年４月２２日付けで、「令和９年度を初年度とする第４次府中市生涯学習推進計画の素案を作成すること」という諮問を受けました。

私たち審議会は、全１２回の会議を開催し、府中市の生涯学習の現況や生涯学習施策などについて事務局の報告を聞くとともに、市民アンケート調査や生涯学習関連団体へのヒアリングの結果から読み取れる府中市の課題や特徴について審議しました。

近年、人口減少や少子高齢化の進展、価値観やライフスタイルの多様化、気候変動と自然災害の激甚化、ＡＩをはじめとするデジタル技術の急速な進展等、私たちの社会を取り巻く環境は大きく変化しています。府中市も例外ではありません。この「先が見えにくい」変化の時代にあっては、一人ひとりが生涯にわたる学びを通じて対応力を付けていくだけでなく、直面する社会課題に対して多様な主体が協働しながら対処していくための、多様な学びの展開が求められています。

こうした「個人の学びを地域全体の力につなげる」取組を進めていくためには、これまで府中市が推進してきた「学び返し」の理念を基盤としつつ、より多くの人たちが、様々な形で学び、学び合い、つながり合っていける「多様な学びのコミュニティ」の形成が必要と考えます。令和６年に策定した府中市文化・スポーツ施設配置等適正化計画では生涯学習センターの学習機能の中心市街地への移転が重点施策の１つとして位置付けられていますが、単なる物理的な移動ではなく、「多様な学びのコミュニティ」を促進するための「コンシェルジュ」機能、地域間・世代間の交流を促進する機能、そしてより多くの人たちが学びに接することができるデジタル環境の強化等が求められています。さらに、府中市が持つ様々な生涯学習施設や人材といったリソースをつなぎ、連携を促進していくことも重要です。

私たちは全１２回の議論において、以上のような基本的考え方を基に検討を進め、別紙のとおり「第４次府中市生涯学習推進計画素案」を作成いたしましたので、答申いたします。

府中市教育委員会におかれましては、本答申の内容を尊重し、国等の動向を十分に認識しつつ計画を策定され、今後の生涯学習施策の推進を図られますよう期待いたします。

第１２期府中市生涯学習審議会

会　長	長畑　誠
副会長	佐野　洋
委　員	池田　和彦
委　員	市村　忠司
委　員	稲津　和彦
委　員	江﨑　章子
委　員	榎本　成子
委　員	梶野　光信
委　員	島田　文江
委　員	杉原　正枝
委　員	関川　けい子
委　員	田頭　隆徳
委　員	立石　朝美
委　員	福田　豊
委　員	吉垣　親伸